

高専

有明高専だより

第131号
2010.6



新入生阿蘇オリエンテーションでの集合写真

目 次

校長だより／入学式	2
編入学生紹介／新入留学生紹介／留学生歓迎会	3
新任教職員紹介	4・5
特集 専攻科長に聞く	6・7
4年生研修旅行	8・9
新入生阿蘇オリエンテーション	10
2年生研修旅行	11
専攻科新入生 1泊研修／新入生歓迎行事	12
岱明寮だより	13
春季球技大会／卒業式・修了式	14
卒業生・修了生の進路／学生表彰	15
トピックス／編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

校長だより

校長 立居場 光生
たて い ば みつ お

高専教育の一層の充実を目指して

一昨年秋に米国の金融危機に端を発した世界的経済不況は、現在でも深刻な雇用状況をわが国で惹き起こしています。昨年度の大学生の就職は極めて厳しく、今年もその状況は続いています。各大学では、社会が求めている人材の育成に目を向け、教育内容や方法を改善する動きが出てきました。一言でいえば、実践教育の導入です。実践教育は、高専では設立当初から建学の基本方針として実施してきており、この点では高専は大学より先んじて工学教育を行っています。このため、企業から多くの求人があるのも当然であると思われます。

しかしながら、重要なことはその中身であって、実践教育という名のみでは社会の要求には応じられません。これまで企業が率先して高専生を採用してきた背景には教育の質が関係しています。その質は能力の高い入学者を対象にした工学教育によって保証されてきました。志をもった多くの中学卒業生が競って本校入学を目指す状況があれば、優れた能力をもった学生が入学します。そして高専教育の充実を常に追求し、実施すれば、学生は社会で活躍できる技術者に成長します。

少子化・理科離れが進む中、本校への志願率がここ2年間増加したことは明るいニュースです。能力のある学生が引き続き入学しています。厳しい雇用状況の下、本校では求人数に学科間の違いが多少ありますか、昨年度は平均すると就職希望者一人当たり15社から求人がありました。今年度は一段と厳しいようですが、大学・高校等の教育機関と比べて驚くべき高い求人状況にあることは間違ひありません。これは本校の卒業生および修了生の活躍が反映された結果によるものです。



質の保証を堅持するため、本校を志願する学生の增加支援活動を今後も継続して、そして、現在の教育課程を全面的に検討・精査して、より優れたものに改正したいと思います。その背景には、科学技術が急速に発展し、高専設立当時存在しなかった技術が実用化され、世界を大きく変えたことがあります。その最たるもののが情報・通信技術で、それを支える材料、デバイスおよびシステムの研究開発は企業や大学では凄まじく、世界規模で現在でも活発に行われています。さらに最近では地球環境に関連した技術の開発も盛んです。

本校が実験・実習を重視し、頭の柔らかい時期に工学の基礎を教え、実践教育の充実を図ることは当然です。また、社会で活躍するには、国語・英語、数学・理科および社会等の科目の基礎学力の修得は必要かつ不可欠です。これらの教育をいわば基本として、今日および今後の社会を展望し、各学科は自らの将来像を明確にして、学生に夢や希望を与え、社会の一線で活躍できる技術者を育成する、そのため教育内容を含む教育課程を精査・刷新することが大切です。学生が各専門分野の成長エンジンを搭載して本校を巣立つように、教育の一層の充実を目指して努力したいと考えています。

入学式

4月6日(火) 第1体育館

4月6日(火)10時より、本校第1体育館において、平成22年度入学式が行われました。

本年度、本科には、機械工学科40名、電気工学科42名、電子情報工学科41名、物質工学科43名、建築学科41名の合計207名が新入生として入学しました。専攻科には、生産情報システム工学専攻18名、応用物質工学専攻5名、建築学専攻4名の合計27名が入学しました。また、高等学校から4年次編入生として合計9名が、ベトナムとモンゴルからの留学生が3年次編入生として1名ずつ編入しました。

校長による入学許可や式辞、大牟田市長および荒尾市長による祝辞、1年生代表の別府幸弥君および専攻科生代表の小吹義弘君による誓詞、そして職員紹介等が行われました。
(広報室 坂西文俊)



入学式の様子



校長式辞

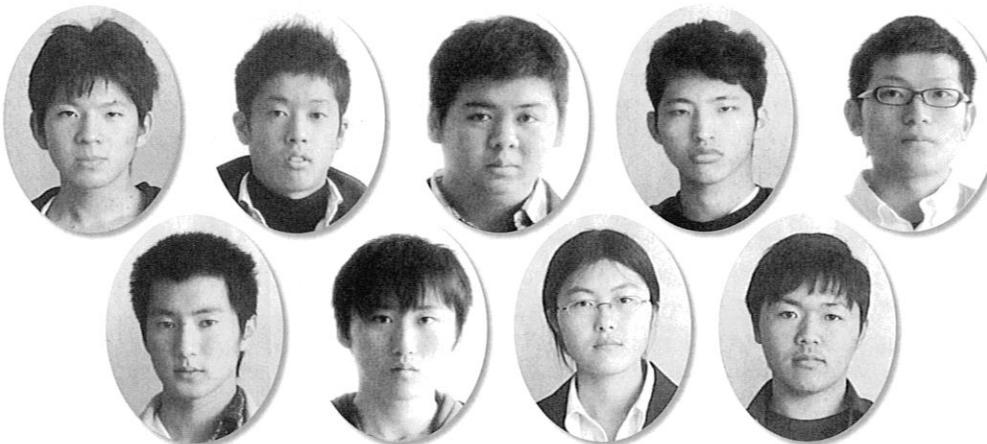


新入生誓詞



専攻科生誓詞

編入学生紹介



左から順に、

- 4M 那須 俊介 (球磨工業)
- 4M 福村 亮侍 (球磨工業)
- 4M 古井 駿平 (御船)
- 4M 前田 和繁 (長崎工業)
- 4M 宮本 健次 (熊本工業)

左から順に

- 4E 緒方 幸輔 (熊本工業)
- 4I 大坂 武 (長崎工業)
- 4C 福地 亜希帆 (第一)
- 4A 成松 広樹 (大村工業)

新入留学生紹介



3I アマー
オドバヤル アマルサイハン

私はモンゴルから参りましたアマーと申します。昨年の4月に来日しました。それから東京日本語教育センターの日本語の1年コースを卒業しました。今年の4月から有明高専の電子情報工学科の3年生に編入しました。

モンゴルはアジアの中央部にある国です。季節ごとに天候が激しく変わります。春は風が強く、湿度はかなり低くなります。秋になると気温が急に下がって冷たい雨がたくさん降ります。冬は大変寒く、12月の平均温度はマイナス25℃になります。しかし、夏のモンゴルはとてもきれいです。母国では国立大学の電子情報学科の1年生でした。しかし、モンゴルの教育に不満を感じ、日本に留学したいと思いました。そして、モンゴルでは教えないことを高専で身につけることができるという気持ちで有明高専に編入しました。

有明高専のみなさん、どうぞよろしくお願いします。



3C コイ
グエン フー マン コイ

私はコイと申します。ベトナムから参りました。今年の4月から有明高専の物質工学科に編入しました。

ベトナムは東南アジアの中心にあります。北に中国、西にラオスとカンボジア、東と南は海に囲まれています。国の形はアルファベットのSみたいです。ベトナムの気候はモンスーン気候で高温多湿です。人々はほとんどベトナム語で話します。

私は日本へ来て東京で1年間日本語を勉強しましたが、まだまだわからないことがたくさんあります。高専に来た当初は少し心配でしたが、先生と友達のおかげで今、高専の生活にだんだん慣れています。これから勉強できるように頑張ります。みなさんよろしくお願いします。

留学生歓迎会

4月12日(月) 修己館

平成22年度の留学生歓迎会が4月12日(月) 放課後、修己館(食堂)にて開催されました。今年度は2名の留学生が有明高専に来られました。モンゴルからはアマー君(3I)、ベトナムからはコイ君(3C)です。歓迎会では新入留学生によるスピーチや母国の紹介、吹奏楽部による演奏、軽食をとりながらの懇談などがありました。勉強のためとはいえば外国で一人生活していくことは想像以上に大変なことだと思います。もちろん、有明高専の学生・教職員もバックアップさせていただきますので、留学生の皆さん、有明高専での学生生活を大いに満喫してください。

(国際交流委員 坪根弘明)



コイ君によるベトナムのプレゼン



アマー君によるモンゴルのプレゼン



会の様子

新任教員紹介

本年度新たに赴任された2名の先生方に、次の4つのことを行いました。

Q 1：本校に来る前は？ Q 2：高専あるいは本校学生の印象は？ Q 3：趣味は？ Q 4：抱負を一言



電子情報工学科 教授
菅沼 明

- A 1：九州大学で、画像情報処理、自然言語処理に関する研究を行っていました。また、教育では、全学部・学科の1年生に対する情報処理教育の取りまとめを担当していました。
- A 2：九大でも、高専からの学生を指導したことがあります。積極的に研究に取り組み、よくできるという印象でした。本校にきても、真剣に取り組む姿勢をよく目にします。こうやって鍛えられているのだと思いました。また、挨拶など元気のよさには驚きました。
- A 3：子供とキャッチボールをやるのが好きです。あと車の運転も好きです。しかし、通勤を公共交通機関に変えたので、運転の機会は減りました。
- A 4：学生時代はいろいろなことに挑戦できる時期です。その手助けができるかと考えています。



機械工学科 助教
福永 道彦

- A 1：九州大学大学院に在学し、「深屈曲が可能な人工膝関節の開発」に参加していました。
- A 2：学生の質にはたいへん幅があるように思います。総じて言えば素直な学生が多いような気がします。
- A 3：月並ですが音楽鑑賞です。好んで聴くのはゲルマン系の交響曲です。
- A 4：全ての学生が一流の技術者に、また立派な社会人になることができるよう、お手伝いできるよう一所懸命勉強していく所存です。

人事交流教員紹介

本年度、佐世保高専から本校電気工学科に、人事交流教員として来られた南部先生に、次の4つのことを行いました。

Q 1：本校に来る前は？ Q 2：高専あるいは本校学生の印象は？ Q 3：趣味は？ Q 4：抱負を一言



電気工学科 准教授
南部 幸久

- A 1：佐世保高専の電気電子工学科に勤務していました。
- A 2：佐世保高専に比べて全体的に元気のある学生さんが多いこと以外は、特に大きな違いを感じません。でも時々、まだこちらに慣れていないことからSF映画のパラレル・ワールドに迷い込んだような変な感覚になる時があります。
- A 3：特にありませんが、前任校では空手道部と少林寺拳法部の顧問をしていました。
- A 4：電気工学科のHPの着任挨拶にも書かせていただきましたが、電気系の資格試験については、経験上いろいろサポートできるかと思いますので、受験勉強の進め方等の相談を含め、是非、声をかけてください。



教育研究技術支援センター
石橋 大作

- A 1：CAD、工作機械を使用し設計、製造をしてました。
- A 2：みんな挨拶してくれて、とにかく元気！！
- A 3：海釣り。なかなか釣れなく魚に餌をやりに行ってます。
- A 4：有明高専で働けることをとても嬉しく思います。私がやってきたことを活かして少しでも学生に伝えることができるよう頑張り、私自身も色々と学んでいこうと思います。

上記の他に、総務課総務係に、平島洋一係長が赴任されました。

転出職員紹介

平成21年3月末で転出された職員の方についてお知らせします。

吉田 覚 有明高専総務課人事・労務係長 → 久留米高専総務課人事・労務係長

新任職員紹介

新たに赴任された8名の職員の方々に、次の4つのこと伺いました。

Q 1：本校に来る前は？ Q 2：高専あるいは本校学生の印象は？ Q 3：趣味は？ Q 4：抱負を一言



事務部長
前田 正満

- A 1：大分高専事務部長でした。
A 2：施設改修が進み、またキャンパス内がきれいに整備されていると感じました。ただし、大牟田市・荒尾市という比較的小規模の市に立地し、しかも市内から遠いということで、立地条件は厳しいものがあると思いました。しかし、教職員の努力により克服できないものではないと思います。
A 3：サイクリングです。自転車は、ストレス解消と健康の維持に素晴らしい効果があります。自転車で温泉やラーメン店巡りをしたいと思います。
A 4：高専を取り巻く状況は厳しいものがありますが、有明高専の発展のため、最大限尽力したいと思います。



総務課人事労務係長
櫛崎 茂

- A 1：久留米工業高等専門学校で総務の仕事をしていました。
A 2：清潔で整った設備環境だと感じました。また、初めて来校したときを見た桜並木の美しさが感動的でした。元気に挨拶する学生たちの姿にも好感を覚えました。
A 3：登山と博物館・美術館鑑賞、それと世界遺産の学習です。大牟田の炭坑遺産は「九州・山口の近代化産業遺産群」として世界遺産登録を目指しているので、本校転任を機に知識と見聞を深めたいと思っています。
A 4：恵まれた環境で仕事ができることを嬉しく思っています。早く仕事に慣れ皆さんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。



総務課施設係
林 祐介

- A 1：九州大学病院経理課にて病院の電気設備の保守管理業務を行っていました。前と比較し有明高専では非常に業務の範囲が広く戸惑うことばかりですが、毎日勉強させていただき新鮮な業務にやりがいを感じています。
A 2：学生がキャンパス内で元気よく挨拶する様には初めは驚きました。非常にすがすがしく気持ちいいです。外部の方も同様に感じておられるのをよく耳にします。有明高専のよい伝統として今後も是非続けて行きましょう。
A 3：以前はよく映画を観に行ってました。2児のパパになってからはもっぱら子育てが趣味となっています。
A 4：皆様にはいつもご迷惑をおかけしてばかりですが、早く有明高専のお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



総務課調達管理係
倉田 誠

- A 1：熊本大学の財務課で3年間働いておりました。主に、支出業務を担当しておりました。
A 2：本校の印象は、緑が多く空気がきれいなところです。それと、学生が非常に大きな声で挨拶をしてくれることに驚きました。
A 3：趣味は、ソフトボールです。熊本大学職員を中心としたチームに入っています。毎週練習をしています。
A 4：少しでも早く仕事を覚えて、高専の役に立てればと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。



総務課経理係
山口 智子

- A 1：九州大学経済学部に在籍しておりました。ゼミ論のテーマとして九州産業を取り上げたことは、有明高専で働くうえで良かったかなと思っています。
A 2：これまで高専という環境に足を踏み入れたことがなかったので、毎日新鮮な気持ちです。学生は毎朝とても元気よく挨拶してくれるので、明るく爽やかといった印象です。
A 3：映画鑑賞が好きなので、大牟田に映画館がないことが少し残念です。他には、運転技術向上のためにも、積極的にドライブに行きたいと考えています。
A 4：社会人としての第一歩を有明高専で踏み出せたことを、大変幸せに感じております。ご迷惑をかけてばかりですが、少しでも早く仕事を覚えられるよう頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



学生課学生支援係
七田 忠資

- A 1：大学卒業後公務員試験の勉強をしていました。
A 2：学校の運動場が陸上競技場並みの大きさであることに驚きました。以前、陸上部に所属していたので久しぶりにスパイクを履いて走りました。
A 3：動くことも好きですが、今は読書です。公務員受験生時代に学んだ思想系の科目が面白かったので、思想系の本を借りて図書館に出没しています。
A 4：9月に配属となりますが、まだ覚えるべき仕事がたくさんあり、日々悪戦苦闘して業務にあたっています。早くみなさんの役に立てるよう努力しますのでよろしくお願ひします。

特集

専攻科長に聞く

— 専攻科の10年を振り返って —

今年は、本校に専攻科が設置されて10年目になります。そこで、歴代の専攻科長に、専攻科10年の歩みを振り返って、お話をお聞きしました。なお、既に退職されている田口先生・新谷先生には、「専攻科の思い出」をお聞きしました。

出席者：宮本信明先生（前専攻科長）、北岡敏郎先生（現専攻科長）
司会：坂西文俊（広報室）



坂西

司会：本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。さて、今年は、専攻科が設置されて10年目の節目になりますが、この10年間を振り返って、専攻科全般を総括したお話を伺えればと思います。

まず、専攻科が設置されたことは、本校全体の歴史の中でみて、意義があったとお考えですか。すなわち、良かった点や悪かった点としてどのようなことがあると思われますか。

宮本：専攻科を設置したこと、教員の研究へのウェイトが増し、教員の研究業績も向上してきたと思います。また研究室内で専攻科生と本科生が一緒に研究することで、本科生も研究の楽しさや難しさがより実感できるようになったと考えています。悪くなった点は

特になく、強いて言えば教員の授業数がやや増えて時間割の編成などで大変になったことです。

北岡：学生諸君にとってよかつた点が多いと思います。進学先が増え、近くに大学がないためあるいは経済的に進学を断念せざるを得なかつた人達が、進学できるようになつた点です。進学者はかなり増えました。悪かったというより、大変になったのはやはり教員です。とにかく、本科のカリキュラムで当時は精一杯だったのに、加えて専攻科の授業が増えたのですから。その分、本科生諸君との接触する時間が少なくなったことは否めないと私は思いました。しかし一方で、その忙しい中でも専攻科生諸君の研究を進めなければならないために、教員の研究が深化したことでも事実です。

司会：先生方は、専攻科が設置された頃、専攻科委員会の委員として専攻科関係の仕事をされていたと思いますが、その頃と先生方が専攻科長をされた最近とを比較して、専攻科の教務的な体制や専攻科生の気質等について、変化がありますか。また、その変化をどのように感じておられますか。

北岡：専攻科が設置されても教員はそれほど増えないため、教員の負担を考えると当初は学校全体として専攻科設置は否定的でした。しかし、一旦創設を決めた以上は本科の単なる延長ではなく、大学院生が学部生を指導するように本科5年生を研究面で指導できるレベルの高い専攻科生の育成を目指そうとしました。そのため、専攻科設置準備委員会では本科の延長にならないよう学生の意識改革が必要と考え、本科の行事とできるだけ切り離した独自の行事を計画

歴代の専攻科長

- 田口先生（機械工学科、2001-2003）
- 新谷先生（建築学科、2004-2005）
- 宮本先生（物質工学科、2006-2007）
- 北岡先生（建築学科、2008-）



宮本先生

司会：先生方は、専攻科が設置された頃、専攻科委員会の委員として専攻科関係の仕事をされていたと思いますが、その頃と先生方が専攻科長をされた最近とを比較して、専攻科の教務的な体制や専攻科生の気質等について、変化がありますか。また、その変化をどのように感じておられますか。

北岡：専攻科が設置されても教員はそれほど増えないため、教員の負担を考えると当初は学校全体として専攻科設置は否定的でした。しかし、一旦創設を決めた以上は本科の単なる延長ではなく、大学院生が学部生を指導するように本科5年生を研究面で指導できるレベルの高い専攻科生の育成を目指そうとしました。そのため、専攻科設置準備委員会では本科の延長にならないよう学生の意識改革が必要と考え、本科の行事とできるだけ切り離した独自の行事を計画

しました。新入生一泊研修やポスターセッションなどです。また、親睦のために学生自らがコンパや独自の球技大会を開いたりしました。球技大会は、その後、学生の要望で本科の大会に参加するようになりましたが。また、教務や学生指導はもちろんのこと、将来の専攻科のありかたや充実策を検討していくために、専攻科全体に責任を持つ専攻科委員会が他の委員会から独立して組織されました。現在、この委員会は廃止されています。

宮本：専攻科が出来て2年目に専攻科委員になり、その年度に学位授与機構への学位申請、ポスターセッションや学科での特別研究発表会などを初めて行ったことは今でも少し覚えています。専攻科委員会で上記について長時間協議し、それを学科の専攻科生に伝えて、指導教員も一緒になって手探りで準備していました。現在はJABEEや認証評価などが新たに加わっていますが、専攻科生については当初の頃と比べても本質的に大きな差ではなく、今でもまじめで一生懸命がんばっていると思います。



北岡先生

北岡：学生の気質については、学科によても異なるのかもしれません、以前の方がどん欲に勉強していたように思います。たとえば、私の授業はゼミ形式で学生が調べてきて発表するのですが、以前は「自ら学ぶ」という姿勢が強く種々の情報を調べてきましたが、今はちょっと調べただけでは「先生に学ぶ」という気質を強く感じます。それには、JABEEの認定校になったことが大きく影響しているのも事実です。創設後数年して、JABEE認定を受けるために、専攻科の当初の目的であったより深い専門性を学ぶことから、複合・融合領域で受審するために専門の枠をはずしたカリキュラムの重視に替わりました。もちろん、学際性や複合領域を学ぶこと自体は意味あることですが、限られた教員の中で当初の目的である深い専門性の授業が減ってしまいました。そして、その受審のためのカリキュラムの消化に埋没せざるを得なかつた、悪くいえば振り回された感が無きにしもあらずです。また、数年をかけた文科省の教育プログラムの取り組みもせっかく出てきた地域連携の芽が継承しきれておらず、有明高専専攻科の独自の発展につながっていない感もあります。

司会：では、先生方が専攻科長をされた中で、一番の思い出あるいは苦労されたことは何ですか。

宮本：専攻科入学者数が急増し、専攻科生の机、椅子さらにパソコン等の備品が足りなくなり、尾崎前校長にお願いして無理して購入していただいたことです。しかも2年間ご無理を通してもらいました。

北岡：最初の頃は保護者や学生諸君に専攻科の知名度が低

く、定員を埋めるのに苦労しました。今でも、そういう年度はありますが、学生定員の倍まで許容されたことで、学生諸君には身近なものになったためか、以前ほど心配をしなくて済んでいます。

司会：専攻科の10年を振り返って、専攻科全体について、あるいは専攻科と学校全体の関わりについて、どのように感じておられますか。



宮本先生

必要があると思います。

北岡：1期生の頃は、自分達が専攻科をつくるんだという意気込みが教員にも学生にもありました。それから10年も経ち、この間、JABEE受審に振り回され、教員も学生も馴れ合って専攻科はこんなもんだと現状に流されている感じがします。

司会：それでは最後に、これから専攻科の体制や専攻科生は、どのようにあるべきか、あるいは、どのようになって行くと思われますか。

宮本：魅力ある専攻科を目指すことにより、さらに専攻科生が増え今以上に地元企業との研究が活発になり、大牟田から新しい産業や起業が生まれることを期待しています。

北岡：10年が経ち、今後も現状維持で生きながらえていく

のか、それともこの節目を契機として飛躍するかが求められています。当然後者でしょうが、そのためには、私達教員が再度自覚して、強い意志を持って学生に呼びかけ、指導することが重要だと思います。内部にいる我々教員は、学生のできない点を過大に評価しがちですが、その評価とは裏腹に、企業や大学院からみた専攻科生の評価は高いものがあることも事実です。このことは専攻科生の潜在能力が高いということの証左です。我々教員の指導次第でたったの2年間でも大きく成長するはずです。その中に専攻科委員会があるべきでしょう。それに関していえば、最近の全国専攻科実務者会議でも、学位審査体制の問題点に端を発して学位授与権あるいはそれに替わる学位審査権獲得の模索、学位授与機構との連携、専攻科の将来像と充実方策、JABEE審査とエンジニアリング教育、地域連携と高専間連携、大学との差別化などが議論されていますが、本校でそれを考えところが全くありません。これからは、これまでのように単にカリキュラムや修得単位の整備だけでなく、これらを中心課題として取り組む専攻科委員会の再組織化が求められます。

司会：本日は、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



北岡先生



坂西

専攻科の思い出

専攻科初期の頃、専攻科長を務められた田口先生と新谷先生には、「専攻科の思い出」というタイトルで記事を書いていただきました。田口先生、新谷先生、ありがとうございました。

名誉教授 田口 純一 先生(機械工学科)

専攻科設置の準備に7年かかりましたが、2001年4月に第1期専攻科生25名を受け入れることができました。前年度までに校舎の増・改築が行われ、教室には余裕があつたものの、まだ、総合研究棟はできておらず、選択教室を使っての授業となりました。それでも、少人数教育、授業ごとに教室が変わることに新鮮味を感じたのではないかと思います。学生の受講の熱心さに、さすが専攻科生と思ったものです。

学士の学位を取得するために放送大学の単位を取得しなければならないことが、やはり面倒で、手続きに気を遣いました。

リフレス大牟田で研修会を行い、自炊料理やスポーツで学生間あるいは教員との交流を深めたのは楽しい思い出です。

特別研究の発表の形式として、ポスターセッションを採用しましたが、他学科の学生、教員の他に、大牟田市長はじめ、外部からの参加者があり、これが専攻科生の最大のアピールの場となつたのはよかつたと思っています。

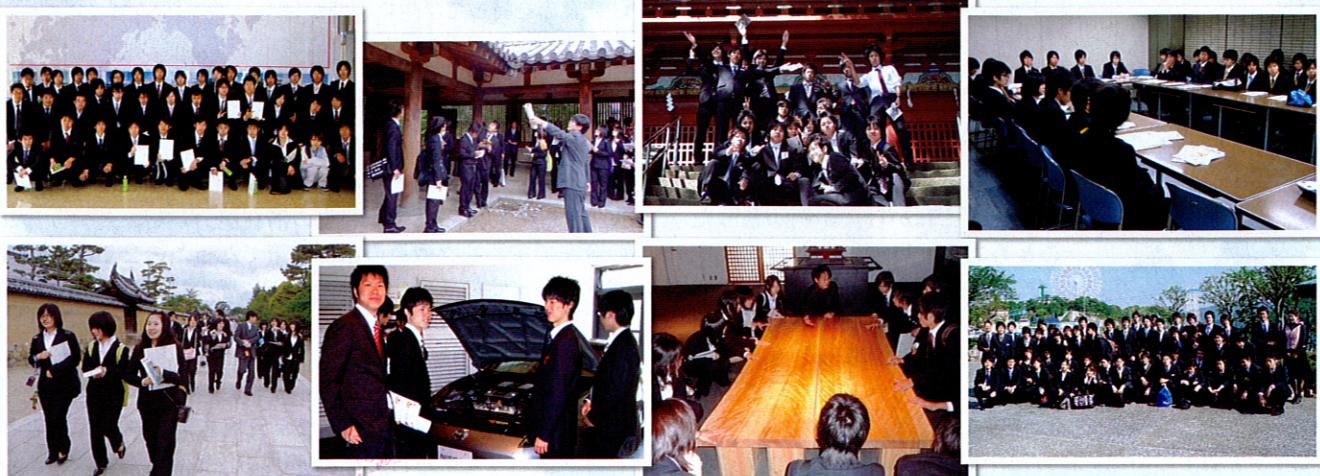
発足から3年目の末に総合研究棟が竣工し、実験研究室、ゼミ室、リフレッシュコーナーなど、おもに専攻科生が使用する空間を確保でき、やっと専攻科生の居場所ができました。

名誉教授 新谷 肇一 先生(建築学科)

専攻科ができて早10年ですね。私は田口先生の後任として、H16~17年度に専攻科長を務めました。この2年間は本校のJABEEの受審・認定および認証評価の受審と重なり、JABEE委員も兼ね、委員会での議論と書類作成に追われました。また、H17年度には「専攻科全国実務者会議」および「九州地区教務主事・専攻科長会議」が本校で行われ、その世話も大変でした。当時は専攻科委員会があり、委員はフル活動でした。委員会ではJABEE認定に対応した専攻科カリキュラムや修了要件の設定を始め、TOEICのIPテストの導入、インターンシップの制度化、学外単位の認定、TA制度の導入、PBL科目の創造設計合同演習の新設、単位計算方法の見直し、ポスターセッションの充実、専攻科生と委員会との懇談会、専攻科生の研究条件整備、自動車通学の許可制などに取り組みました。JABEE認定でTOEIC400点相当が専攻科修了要件になり、英語が苦手の学生を苦しめ、中には就職内定しながらTOEICのために専攻科修了ができない学生もいました。また、学位取得のための「学位授与機構」の審査と試験が負担であると思います。私の研究室ではH14年度以来1~4回生までの優秀な専攻科生を受け入れ、本科生と一緒に楽しく調査・研究活動を行つたことが良い思い出です。

4年生研修旅行

5月11日(火)-14日(金)



機械工学科

4M 金子 貴哉・河内 拓也

三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 飛鳥工場／ヤマハ発動機(株)浜北工場／(財)鉄道総合技術研究所

私たちちは、3泊4日という日程で研修旅行に行きました。研修先は、愛知県にある三菱重工業(株)、静岡県浜松市にあるヤマハ発動機、東京都国分寺市にある鉄道総合技術研究所です。

三菱重工業(株)では、民間航空機やヘリコプターを制作していました。ここは、宇宙システム製作所でもあります。研修に行った時、H-IIロケットを制作していました。こちらの会社ではロケットが制作されていることに驚きました。ヤマハ発動機では、モーターサイクルを中心としたスノーモビルやバイク、バギーなどのエンジン部品を制作していました。工場は部門ごとに分かれていて各部門には、一台数十億円もある機械がありました。ヤマハ発動機はジュビロ磐田を応援されておりして、社会に貢献されている企業だと思いました。

鉄道総合研究所では、リニアモーターカーのことについて話を聞き、パンタグラフの制作工夫や、盛土の実験を拝見しました。ここでは、さまざまな実験が行われている工場があり、大きな企業だなと思いました。また、近未来に使用されるリニアモーターカーの話に興味がわきました。将来、実現できると大きな発展をとげるのではないかと思いました。



電気工学科

4E 宮園 龍弥

NHK放送センター／(株)東芝 浜川崎工場／日本モレックス(株)／日産自動車(株)横浜工場

東京方面に研修に行ってきました。1社目はNHK放送センターに行き、光やカメラなどの調整によって、見る印象が全然違ってくると聞き責任の重さを感じました。

2社目は、変圧器などを手掛けている東芝浜川崎工場に行き、とても大きな変圧器などを手作業で組み立てるということにとても驚きました。

3社目は、コネクタ製造で高いシェアを誇っている日本モレックス株式会社に行き、金型や製造ラインなども作ったり、開発したりしていると聞き、「すごいな」と思いました。

4社目は、日産自動車横浜工場に行き、製造ラインを見学でき、失敗をなくすための工夫が多くおこなわれていて、失敗を減らすことの大切さがわかりました。

今回の研修は、実際の工場などを見て、どの会社も大きく見たこともない機械などを使って、「自分たちが今学んで

いる勉強が本当に基礎的なことなのだな」と実感し、「もっと勉強を頑張らなければならないな」と思いました。これからの進路選択では、この研修で得たことを役立てていきたいと思っています。



電子情報工学科

4I 松岡 穎明

(株)全日本空輸／(株)テルム 入舟事業所／東芝科学館／富士通(株)川崎工場テクノロジーホール

私たち電子情報工学科は、全日空整備工場・テルム・東芝科学館・富士通・未来科学館に行きました。

最初に見学した全日空整備工場では、安全な飛行のための配慮や、燃費削減のための最新技術などについて学びました。次に見学したテルムでは、家電のリサイクルについて学びました。ほとんどの工程が手作業で行われており、大変そうだという印象を受けました。東芝科学館では、科学技術の発展について見学しました。富士通ではコンピュータの歴史や最新技術などについて見学し、とても勉強になりました。特に、50年前に製造されたリレー式計算機が実際に稼動した様子を見たときは、感動に近いものを感じました。最後に見学した

未来科学館では、情報や生体に関する展示を見学しました。

今回の研修では、最新技術のほか、実際に社員が働く様子なども見学することができました。ここで学んだことを生かし、自分の将来について考えてみたいと思います。



物質工学科

4C 西田 絵美

明電舎／三井化学シンガポール工場／シンガポール・ポリテクニック校

今回の研修旅行は海外であったということもあり、様々なことを学ぶことができました。企業訪問では、明電舎と三井化学を訪問しました。明電舎では大型・中型の変圧器について学びました。明電舎は静岡県とシンガポールの二ヶ所に建設されており、日本ではデザインから部品の製造まで行われ、シンガポールでは組み立てから出荷まで行っていました。このような異国との連携作業が行われていることに驚きました。また、シンガポールは多民族であることから、作業の注意書きが何カ国もの言語で示されていて、シンガポールならではの特徴を感じることができました。三井化学では、フェノールとアセトンの生産過程や輸送方法について学びました。三井化学は島全体が工業地帯であるジュロン島に建設されていました。なので、周りには多くの工場があり、その中には取引先である旭化成や帝人化成も隣接していました。また、原料である物質は、ジュロン島から見えるくらいの近くの島から供給されていました。輸送方法としては、液体である生産物はパイプを通して取引先に輸送するという工夫がなされていました。このような工業地帯であることで、作業の効率が上がり、コスト削

減にも繋がっているという背景を目の当たりにできました。

さらに、ポリテクニック校というシンガポールの高専も訪問しました。日本の高専と比較できないほどの規模でした。

また、自主研修や市内観光では、直接シンガポールの人達とふれあうことができ、シンガポールの文化を知ることもできました。さらにシンガポールの学生たちの日本語の上手さに感心させられ、自分の英語力のなさを感じました。

シンガポール研修を通して、海外ならではの企業の特徴やシンガポールの人たちの温かさを肌で感じることができ、自分自身にとって特別な体験ができました。



建築学科

4A 山崎 春菜

天保山ハーバービレッジ・海遊館／大阪国際平和センター／法隆寺・薬師寺・東大寺／竹中大工道具館／北野異人館／人と防災未来センター

私たち建築学科は、関西地区に研修に行きました。古建築・現代建築を見学し、装飾面や機能性、まわりとの調和など、様々な視点から建築を学びました。奈良・京都の寺院では、教科書では確認づらい細部の構造・装飾を実際に見ることで理解度を深め、想像を超えるスケールの大きさに木造建築のおもしろさを感じました。また、寺院の時代や宗教ごとの特徴を確認し、その歴史と変遷に感動しました。一方で、サントリーミュージアムや梅田スカイビルでは空間の使い方や発想を知り、人と防災未来センターでは地震の恐ろしさを改めて痛感し、今後の課題を考えさせられました。

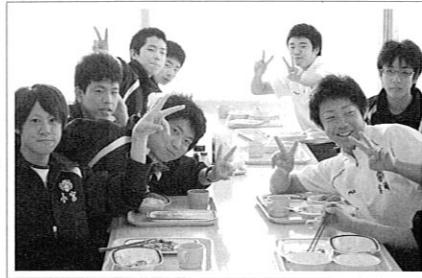
この研修で、たくさんの建築物を見てスケッチしてきて、多

くの知識を得ることができました。それをこれからの学習に活かすと共に、もっと奥深いことを学んでいきたいと思います。



新入生阿蘇オリエンテーション

5月20日(木)-22日(土)



阿蘇研修について

1M 川野 将哉

阿蘇研修を終えて、改めて3日間を振り返ってみると、大変できつかったけど、思っていたよりも楽しく過ごせたと思います。そんな阿蘇研修で強く心に残っていることをいくつか書きたいと思います。

一つ目は、最初のバスです。友達と楽しく話をしながら外を見たりして楽しんでいました。バスの中での校歌も、最初は苦しいと思っていたけれど、今となってはとても楽なことのように感じます。

二つ目は、ハイキングです。雨が降っていたのが少し残念だったけれど、花がきれいで、景色が最高でした。

三つ目はとくに頭にも心にも残っています。初日の夜の校歌練習です。声がガラガラになってしまって歌い続けることはとてもつらかったです。バスの中の校歌の数十倍は苦しかったと思います。団長の先輩方も厳しく、つらい思い出です。が、逆に、一生心に残る思い出にもなると思います。

2日目は、オリエンテーリングがありました。大自然の中での弁当はとてもおいしかったです。苦手なものまで食べられるようになれるかも知れません。そして、仲間達とおしゃべりをしながら歩いて行くのはとても楽しかったです。こんなきれいな大自然の中に少量でもゴミが落ちていることが不思議でした。なぜこんなきれいな場所を汚すようなことをするのだろうと考えながらゴミを拾いました。

こんなにたくさんのことを経験することができたので、自分も、来る前より少し成長したと思います。食事もおいしかったし、風呂も楽しかったし、来る前は行きたくないと思っていた阿蘇研修に、今は感謝しています。この阿蘇研修の間、僕たちを支えてくださった方々に強く感謝しています。

阿蘇研修で得たもの

1C 石橋 拓也

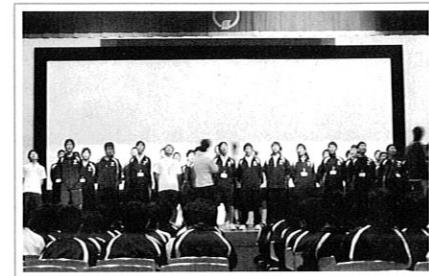
ぼくはこの阿蘇研修で得たものがたくさんあります。

一つ目は、友達です。ぼくは阿蘇に来る前、友達が少ししかいませんでした。まだ話したことのない人がほとんどでした。でもこの3日間いつしょに生活していくいろんな人と友達になり、友達だった人とも、もっと友情を深めることができました。

二つ目は、協力し合うことです。とくにオリエンテーリングのとき、最初ぼくは「優勝なんて絶対無理だろう」と諦めました。他の学科のすごく頭のいい人なんかには絶対勝てないと思っていた。でも、班のみんなが頑張ってポイントを探している姿を見て、ぼくも「頑張らなきゃ」と思いました。でも、ぼくはなかなかポイントを見つけることができなかつたので、ゴミ拾いを頑張ることにして、一生懸命ゴミを拾いました。途中で車のバッテリーが落ちていたので拾ったのはいいけど、すごく重たくて途中でおいて行こうかと思いました。でも班の仲間が持つのを手伝ってくれたので運ぶことができ、優勝することができました。

三つ目は、何事も全力を尽くすことです。1日目の校歌の練習の時、ぼくはバスの中ではのどを気にしてあまり大声を出せませんでした。それでやり直しを何度もしないといけませんでした。夜の練習ではのどを壊す覚悟で全力で歌いました。そして何とか乗り切れました。団長さんはそれまでずっと怖かったけれどいい人でした。だらけていた気持ちが引き締まりました。

この3日間厳しくもあり楽しくもありました。この大自然の中でいろいろ学べてよかったです。講話をしてくださいたり引率をしてくださった先生方や団長さんにはすごく感謝しています。阿蘇研修があってよかったです。

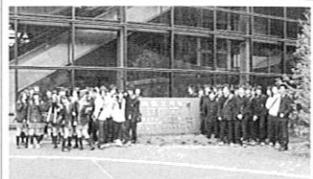


2年生研修旅行

混合学級クラス編成の2年生は、「教養を高め、社会性を身につける」と「クラスの親睦」を目的に、九州国立博物館とその周辺の見学の研修を行っています。

九州国立博物館について

- 九州国立博物館の建物は、とても個性的で「龍」をイメージされているらしいと聞きましたが、とてもそのように見えませんでした。太陽光発電をしたり、建物の中の天井には、湿気を吸収させるため木をならべ、またその木は間伐材を使用したりとさまざまな工夫がされており、環境問題についても考えさせられました。
- 九州国立博物館は、東京・京都・奈良に次いで設立された国立博物館である。東京・京都・奈良の3つの博物館は美術系博物館であるのに対して、九州国立博物館は文化体験型博物館である。興味深かった点は、災害に強く建設されていることだ。歴史的に重要な意味を持つ展示物を守り、多くの人々に見せていくという姿勢が強く感じられた。



1組:4月20日(火)



2組:4月23日(金)



3組:4月21日(水)



4組:4月27日(火)



5組:5月7日(金)



太宰府天満宮（楼門・本殿）について

- 楼門は左右対称的にサイドに広がり、塗装の色は創立当時は変わらぬ雰囲気をだしていました。門をくぐれば正面に本殿があり、それを囲うように堀があり、広い空間ではないがとても広く感じました。また、今なお、しっかりと存在する本殿に感動しました。建築学科の学生として、来世にまで残るような作品、建物を作りたいと思いました。
- 太宰府天満宮の本殿は、再建されて400年以上も経っているのに、建物自体は堂々としていて屋根の檜皮もしっかりしていた。昔の日本の建築の頑丈さに圧倒された。

太鼓橋について

太鼓橋には、過去は振り返らず、現在は踏みしめて、未来はつまずかないようにという意味があると聞きました。このように私も過去のことを生かし、慎重に一步ずつゆっくり未来に進んでいきたいです。



光明禅寺について

1273年創建の臨済宗東福寺派に属する禅宗寺院。本尊は薬師如来。別名「苔寺」という。庭が二つある。一つ目の庭はきれいに手入れしてある石庭だった。二つ目の庭は建物に入って中から見ることができる。木やコケの緑が大変美しく、心が落ち着く風景だった。

全体の感想

- 今回の研修旅行は、思い出に残るものばかりでした。まず、古伊万里展がすばらしかったです。今では、主に観賞用だけど、昔は実用的なものがたくさんあって、その時代を感じられた気がした。また、太宰府天満宮には初めて行ったので、本殿と楼門の壮大さには驚きました。そして、友達とも更に仲良くなつたので良かったです。
- 様々な歴史文化財に触れ、学問の神がまつられている神社を巡ることで、学問への意欲や探求心が深まった研修旅行でした。特に、九州国立博物館の特別展を見た時、日本の職人の仕事の細かさや、より良いものを作ろうとする技術者としての心構えを学びました。パリの王族の部屋にも日本の職人が作った陶器が飾られていることを知り、それほど完成度の作品を作り上げるのにどのくらいの時間をかけたのだろうと思いました。自分も技術者の卵としてこの研修旅行で学んだことをこれから学校生活に活かしていくといきたいと思います。
- とても楽しく研修することができました。友達と一緒に一日歩き回るのは久しぶりで、それに新しいクラスでの友達なので、より仲良くなれた気がします。雨は残念だったけど、とても充実した研修になりました。

専攻科新入生1泊研修

4月22日(木)・23日(金)

専攻科新入生同士及び担任との親睦を深めるため、4月22日(木)・23日(金)に「リフレスおおむた」で恒例の一泊研修を行いました。

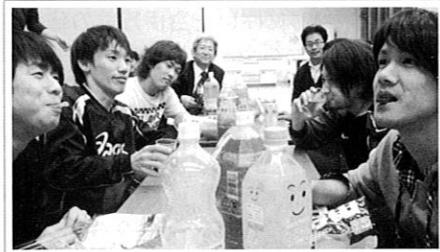
研修内容は、2年間のスケジュール説明、自己紹介、校長講話、バーベキューパーティー、懇親会、2日目に単位履修の説明、YOCASOLと大牟田エコタウンを見学して、15時30分過ぎに帰校しました。

前日から降り続いた雨があがつばかりのため、キャンプ場の調理場でバーベキューパーティーをし、担任以外にも3名の先生が参加され、狭い空間で盛り上りました。しかし、それが裏目に出で、前が見えないほど煙がたまり、煙でもせかえる中で焼きながら食べるという悪戦苦闘ぶりで、気がつくと学生はまわりにいらず、校長と私だけという場面もありました。校長からは「2年間集中して勉強せよ」、「人と違った認識や思考のトレーニングをせよ」という講話をいただきました。今回、新たに隣接する工業団地のYOCASOLというテレビで紹介された太陽電池パネルの制作工場を見学に加えましたが、新鮮でした。最後に、今年はアルコールが少なかつたせいか、懇親会はノンアルコール状態となり、学生諸君は物足りなかつたようですが、私は3回目にして初めて熟睡できた研修でした。

(専攻科長 北岡敏郎)



何をつくろうか



静かな懇親会



エコタウン見学



さあ研修だ



集中して勉強せよ

新入生歓迎行事

4月16日(金) 学生会長 5M 寺地一拓

新1年生と編入学生を歓迎する新入生歓迎行事が4月16日(金)に行われました。各学科に分かれての歓迎会では、新入生が大きな声で自己紹介をし、工夫を凝らしたパフォーマンスで会を盛り上げてくれました。私が1年生の頃のことを振り返ってみると、歓迎会直前までパフォーマンスは何をしようかと悩み、当日も先輩方に圧倒されて緊張に震えながら、紹介の順番を待っていたことを覚えています。

新入生の皆さんも、同じような想いで当日を迎えられたのではないでしょうか。しかし、こうして歓迎会を振り返ったとき、悩み抜いて準備をしたパフォーマンスや当日の緊張感、さらにそれを乗り越えてこの行事をやり遂げた達成感は、皆さんの自信につながったのではないかと思います。この経験を良い思い出とし、これからは有明高専の一員として、より一層の自覚を持った行動ができるように心がけてほしいと思います。

さて今年は2年に一度の高専祭の年です。体育祭とはまた一味違った雰囲気の中で、各科の特徴が現れます。みなさんも、各学科の雰囲気を感じながら一丸となって高専祭を創り上げていきましょう。

そのためにもまずは、気軽にあいさつを交わすことから始めてみてください。先輩ともよい関係良い関係が築けるようになると思います。



I科



C科



A科



M科



E科

岱明寮だより

寮生指導者研修会 in 岱明寮

4月3日(土)、寮生指導者研修が岱明寮にて行われました。寮生会役員をはじめ、寮務主事室スタッフ、寮務委員、寮務係、寮母さんの合計30名が参加し、寮生遵守事項の確認、寮生会と主事室の双方からの要望、重点目標や今年度の寮の運営方針について、意見交換を行いました。



充実した研修を終え、満開の桜と共に

今年度の重点目標

よりよい寮を目指して

寮生会の活動を活発にする

寮長 江崎君より、今年度の岱明寮の重点目標が寮生総会にて発表されました。

入寮式

4月6日(火)12:00より、視聴覚室で、入寮式、入寮オリエンテーションが行われました。1年生69名、4年次編入生9名、3年次留学生2名の合計80名が、岱明寮に新たに入寮しました。校長・保護者会副会長・寮務主事のお話、寮務主事補から寮生活についての説明、5E江崎寮長や指導寮生の挨拶がありました。



寮務主事から歓迎の挨拶



寮長・指導寮生の紹介・挨拶

新入寮生歓迎夕食会

4月8日(木)、岱明寮において、新入寮生歓迎夕食会が行われました。1年生、4年次編入生、3年次留学生の合計80名の新入寮生が在寮生の拍手に迎えられて入場しました。校長・寮務主事の挨拶、出席教職員の紹介の後、会食が始まりました。その後、恒例の新入寮生一人一人による自己紹介が行われました。



新入寮生の入場



1年生が元気に自己紹介



4年次編入生の自己紹介

春季球技大会

5月26日(水) 体育局長 4M 福岡 翔太

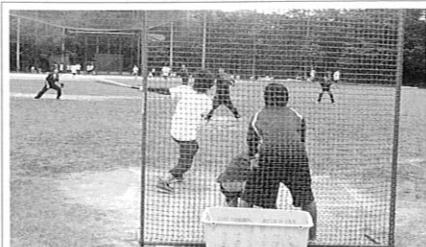
5月26日(水)に春季球技大会が行われました。

今回も熱心に練習をする学生が多く、大会に対する意気込みが強く感じられました。

当日の天候も良く、競技のレベルも例年に比べてとても高くなってきていて、見てもとても楽しめる大会になってきたと思います。

冬季球技大会も、この調子で頑張ってください。

最優秀クラス	4M	優秀クラス	5M
種目	優勝	準優勝	MVP
ソフトボール	4M	5E	金子 貴哉
男子バレー	4M	5C	福岡 翔太
女子バレー	5A	4C	佐々木 朱梨
卓 球	2-3	1E	堤 敏裕
テ ニ ス	専攻科	5E	笠 正博



卒業式・修了式

3月15日(月) 第1体育館

平成22年3月15日(月)、本校第1体育館において、平成21年度卒業式および専攻科修了式が行われました。

本科では、機械工学科36名、電気工学科36名、電子情報工学科45名、物質工学科34名、建築学科34名の卒業生に「準学士」の学位期が授与されました。

専攻科では、生産情報システム工学専攻20名、応用物質工学専攻8名、建築学専攻6名が修了し、JABEE認定プログラム修了証書、学位記が授与されました。

校長による告辞、大牟田市長および荒尾市長による祝辞、学生会長の4M寺地一拓君による送辞および卒業生・修了生代表の5M柿原隆宏君による答辞等がありました。

卒業生および修了生の皆さんこれからのご活躍を祈念いたします。
(広報室 坂西文俊)



卒業式の様子



校長告辞



証書授与



答辞

学生表彰

	成績優秀賞	学 会 賞
機 械 工 学 科	湯口 雄大	柿原 隆宏 (日本機械学会富山賞)
電 気 工 学 科	木下 侑紀	今村 泰隆 (電気学会九州支部長賞)
電 子 情 報 工 学 科	笠 正博	豊福 卓哉 (電子情報通信学会九州支部長賞)
物 質 工 学 科	枝廣 真樹子	枝廣 真樹子 (日本化学会九州支部長賞)
建 築 学 科	白神 知美	長嶋 龍太朗 (日本建築学科九州支部長賞)

卒業生・修了生の進路

機械工学科

アイシンエンジニアリング
青山製作所
王子板紙
オークマ
鹿島クレスウエスト
九州グリコ
九州電力
キヤノン
極東開発工業
山九
サンテクノ
三松
ジャパンシステムエンジニアリング
JFEスチール西日本製鉄所

新日本製鐵
ソフトサービス
中央エンジニアリング
デンソー
東京エレクトロンFE
ニチゾウテック
日本メディカルマテリアル
マキシス工業
三菱重工業
ヤンマー建機
有明高専専攻科
群馬高専専攻科
九州工業大学
熊本大学

物質工学科

大牟田電子工業
九州トリックス
熊本製粉
さつき協同組合
三興グループ
新日本製鐵
昭栄化学工業
第一高周波
田中電子工業
チッソ
DIC
電気化学工業
東京エレクトロンFE

東燃ゼネラル石油
東レ
日立アプライアンス
福岡県国民健康保険団体連合会
雪印乳業
ライオン
有明高専専攻科
九州産業大学
鹿児島大学
佐賀大学
東京農工大学
豊橋技術科学大学

電気工学科

IHIエアロスペースエンジニアリング
出光興産
王子板紙
大塚製薬
オムロンフィールドエンジニアリング九州
鹿島クレスウエスト
関東化学
キューキ
九州電力
三興コントロール
サン電工社
新神戸電機
大和製罐
中部電力
電気化学工業
東芝プラントシステム

東洋製罐
トッパンテクノ
トヨタプロダクションエンジニアリング
西日本旅客鉄道
半導体エネルギー研究所
久光製薬株式会社
日立INSソフトウェア
富士ゼロックス
富士通ビジネスシステム
富士電機システムズ
フランソア
ヤンマーグリーンシステム
リコータクノシステムズ九州支社
有明高専専攻科
熊本大学

建築学科

NTTファシリティーズ九州
奥谷組
オフィスピンド
鹿島クレスウエスト
キューハウ
五洋建設
伸宅建設
高砂熱学工業
TAK-QS
竹中工務店
東建コーポレーション
鳥栖キューピー
西技工業
日ibri化工

福井構造設計
松尾設計
三菱化学エンジニアリング
三菱地所藤和コミュニティ
山口製作所
有明高専専攻科
鹿児島大学
北九州大学
熊本大学
千葉大学
長崎大学
豊橋技術科学大学
和歌山大学
大工育成塾

生産情報システム工学専攻

オーレック
日鐵プラント設計
日立造船
マルマテクニカ
三菱重工業
三菱電機ビルテクノサービス
サンリツオートメーション

NTTコムウェア九州
テキサスインスツルメンツ
日立超LSIシステムズ
九州工業大学大学院
九州大学大学院
奈良先端科学技術大学大学院
早稲田大学大学院

応用物質工学専攻

旭化成
いなだ豆
熊本製粉
中外製薬

DIC
ムライケミカルパック
九州大学大学院
豊橋技術科学大学大学院

建築学専攻

アステックペイントジャパン
上村建設
NTTファシリティーズ九州

セキスイハイム九州
総合設備コンサルタント
山本設備工業

学生表彰

平成21年度 1年間皆勤賞

1M	1E	1I	1C	1A	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5
12名	18名	12名	25名	21名	4名	6名	11名	10名	9名

トピックス

福岡県教育委員会から バドミントン部が表彰

昨年度の全国高専体育大会でバドミントン男子団体が優勝したことにより、バドミントン部男子チームは、福岡県教育委員会から表彰されました。



九州地区高専留学生日本文化研修

3月27日(土)～29日(月)、九州地区高専留学生を対象とした春季日本文化研修が実施されました。今回は熊本高専から4名の留学生、本校からは3名の日本人学生が参加しました。

初日は大牟田市動物園の見学、2日目は熊本県立装飾古墳館の見学と勾玉づくり、熊本県玉名郡の江田船山古墳および肥後民家村の見学と菊池川でのカヌー体験をし、最終日は岱明寮で折り紙講座(ミウラ折り)を受けました。まだ肌寒い時期ながら日中は春の日差しも暖かくカヌー体験ではゆったりとした雰囲気を味わい、日本の歴史や文化に触れて楽しく充実した研修となりました。また、本校学生との交流も深まり、参加した留学生には大変に好評だったということです。

(前国際交流委員 森紳太郎)



シンガポールポリテクニック訪問

有明高専-シンガポールポリテクニック交流プログラムの一環として、3月17日～25日の9日間、11名の学生と教員がシンガポールポリテクニック校を訪問してきました。

今回のプログラムではシンガポールポリテクニック校での英語の授業(実践英会話)や様々なスポーツ体験(アーチェリー、ロッククライミング、ムエタイ、フットサル)も行ってきました!シンガポールの文化や風土、そして実践英語、食事などを思う存分体験してきたのはもちろんですが、シンガポールの学生さんやスタッフの方々と親しい友人になり、大変有意義な研修旅行となりました。お世話していただいた皆さん、本当にありがとうございました。

(国際交流委員 坪根弘明)



授業参観・後援会総会

5月25日(火)午後より、授業参観および後援会総会が行われました。多くの保護者の方々にご来校いただき、ありがとうございました。

授業参観では、教室に入りきれず、廊下から参観していただいたクラスもありました。後援会総会では、昨年度の活動報告、本年度の活動計画の承認、本校の現況の報告等が行われました。

(広報室 坂西文俊)



編集後記

梅雨空の隙間の青さを美しく感じる季節となりました。

新しい学年がスタートしてから早3ヶ月が過ぎ、この間、入学式、オリエンテーション、研修旅行、球技大会といった大きな行事がたくさんありました。今号ではこれらの皆さんの活動を紹介しています。

振り返ってみると、一回り大きくなった自分を感じることができるのでないでしょうか。

梅雨が明けると、いよいよ夏本番です。高専大会や期末試験も控えていますので、くれぐれも体調管理には気を付け、自分の定めた目標を達成するため精一杯がんばってください。

有明高専だより 第131号

平成22年6月29日

編集・有明高専広報室
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

